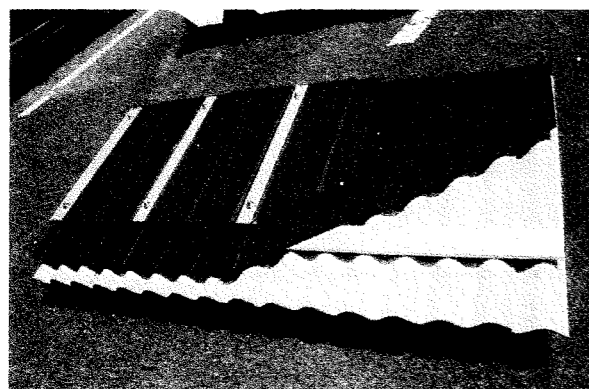


リレー記事 No.84

## 視点変え、世界も注目の超薄型太陽光発電システムに



お隣の佐賀県鳥栖市にある『川口スチール工業』という会社が、今、世界からも注目されていることを知りました。金属系屋根施工業を得意とする『川口スチール工業』では、これまで培ったノウハウを活かし、超薄型太陽光発電システムを開発されています。これは、工場・倉庫・公共施設・学校・体育館・ショッピングセンターなどの大きなスペースを有効活用して、強度上の問題から太陽電池設置が難しい施設に、屋根に負担の少ない、太陽電池を設置することができる太陽光発電システムです。採用している太陽パネルの厚さは下敷きほどで、重さは一般的なガラス基板型のわずか 1/7、フィルム型で波型スレート屋根にも設置でき、設置に伴う強度補強や従来の取り付け架台なしに、太陽電池を設置できるのだそうです。



▲スレート屋根上の薄い太陽電池



▲曲線屋根にも太陽光発電

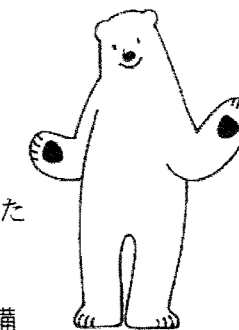
この川口スチール工業の太陽光発電システムの発電量は、一般的なガラス基板のものに比べて 1/3 ~ 1/4 と少なく、一般的な住宅用向けとしては不向きようですが、前述のように軽いので、取付工事のコスト抑制が生かされる設置面積が広い産業用として販売されています。2008 年度までの国内の太陽電池の普及状況は、総出荷量のうち 80 % 以上が住宅用で、産業用としてはかなり低いものでした。その原因の一つが太陽光パネルの重さによる屋根への負担だった為、産業界から注目されているのだと思われます。現在は海外からの問い合わせもあるそうです。

発電効率だけで判断されがちな太陽光発電システムですが、視点を変えることで、今まで取り組みが進んでいなかった領域への進出が可能となりました。地球の資源を枯渇させずに利用し続けられるエネルギーの活用として、今後も期待したいです。

【参考資料】川口スチール工場: <http://www.steel-k.com/gaiyo/index.html>

<<N, N>>

## しろくまプロジェクト発進!



福岡県より仮認定を受け、エコけん に3番目のミッションが 加わりました

- ① 『持続可能な開発のための教育』を地域に根づかせること
- ② より多くの人々が自分の力を社会に提供しやすくするための環境整備
- ③ 寄付の新たな価値を創造すること

皆さんはどんな時に寄付をされますか?

特別困っている方への施しの寄付や、コンビニなどのおつり寄付は、私たちにとても身近です。では、「自分たちの地域や社会はこうなって欲しい」と思うとき、その実現に向けて活動する人への寄付となるとどうでしょう。この寄付には、活動情報とひとりひとりの選択の両方が必要なので、まだまだ身近とは言えません。

私たちは、これを「共感の寄付」「活動信託の寄付」と呼び、その推進のためのプロジェクト（「しろくまプロジェクト」）を開始しました。これから、社会活動と寄付についてプロジェクトを通して皆さんと考えていきたいと思っています。

しろくまプロジェクトについてお問合せくださった方には、詳しい資料をお送りします。また、Webでのお申し込みもお待ちしています。

<<S>>

しろくまプロジェクト

未来を担う子ども達へ  
**しろくま教室7.セント** 企画

- 1 1口1,000円の寄付をお願いします。  
\*寄付者は、プレゼント先の地域(福岡県内)を選ぶ事ができます。  
\*1口以上の寄付者は、税金の控除対象になります。
- 2 皆さんの志が集まったら、
- 3 「しろくま教室」で、  
子どもたちに地域連携の現状と、私たちにできることを伝えます。
- 4 寄付してくださった方に、  
学校や子どもたちの声や様子を  
の手紙でお知らせします。



### つれづれ草枕 6月

水無月に降る雨には紫陽花、田んぼには蛙が似合う。  
ほどほどに！塩梅よく！ちょうどいい加減に降って下さい。



五月雨を あつめて洪水 やめてよね

<<日女>>

## 「たのしいネ2013」! 第1回種まきに参加しました

6月2日、ペットボトル稲を育てるワークショップ「たのしいネ」に参加しました。会場は都会の真ん中にあるオフィスビルの屋上です。ペットボトルを使った稲の栽培は、田んぼのない場所でも取り組めるので、小学校の先生方も多く参加されていました。

1回目は、昨年ペットボトル稲に取り組んだ小学校の事例を見せていただいた後、福岡教育大の平尾先生の種の種類や発芽に関するお話、種まきの実習、お昼をはさんで種まき用の土の準備をしました。プリンカップに優しく種まきをしたり、昨年の稲刈り後の土を大きな土ふるいで再生させるなど、次回の田植えに向けて楽しく体験しました。



▲屋上田んぼ



▲プリンカップ苗床

お昼ご飯は1品持ち寄りで、いろいろなおかずをネタに、あっという間に初対面の方とも打ち解けました。持ち帰った稲は、見る見る伸びていて、秋の実りと収穫へ向け気持ちもググッと上昇しています。

たのしいネHP: <http://tanoshi-ine.com/>  
 <<Yっち>>

## 「みんなで育てたイネ」!

お米は、2000年以上前に中国から九州北部に伝来したそうです。日本は、稲作の発展とともに国としての体裁が整い始めたのだとか。私たちのルーツであり、現在の暮らしに深く関わっているが、あまりに無頓着だったことに気づかせてくれたのは、古賀市ほたるの会さんの「田んぼの生きもの調査」講座でした。

そこで、「してみんとわからん」がモットーのエコけんは、のら部でエコロの森再生・展示棟の真ん前に『エコロ田』を開墾することにしました。稲作がうまくできるかは分かりませんが、年間を通してイネをテーマにいろいろ取り組んでいこうと思います。エコロにおいでの際は入館の前にのぞいてみてください。

<<S>>



## 未来を創るうインタビュー

No.27 新宮町教育委員会 社会教育課  
 船越 郷子 氏

10年ほど古賀市で、昨年からは現在の職場で地域活動指導員として活躍しておられる船越さんにお話を伺ってきました。元々教員の経験があり、ちょうど子育てが落ち着いた頃に指導員になられたそうです。地域活動指導員は、子どもの生きる力を育むための様々な体験活動を企画、立案し、運営指導する仕事です。実施に当たっては、地域の大人や大学生の支えがなくてはならないそうですが、体験活動を通して、子どもだけでなく支援する側も成長するのを実感してあるようです。船越さんご自身、いつも子どもたちから元気をもたらしているそうで、お話を伺っていると、子どもが大好きで、子どもの成長を見守る喜びが伝わってきました。

Q. 未来のために今何が重要だとお考えですか

A. 子どもたちが、いろいろな人に出会い、たかさんの「見たことある!」「聞いたことある!」「やったことある!」等の体験をすること。

Q. そのために

ご自身で心がけておられることは

A. まずは、行ってみよう! やってみよう!!




## 未来を創るメッセージ

### おせっかいおばさんも、時には必要

ご自身が子どもの頃は『いろいろ声かけてくるおばさんは面倒くさいな』と思っていらしたそうですが、地域で子どもを育てる大切さから『おせっかいなおばさんも大事な存在!』と思うようになったそうです。時間ができたら、近くの小学校の門に立って朝のあいさつの声かけをしたいとおっしゃっていました。

切り口は違いますが、未来を担う子どもたちの育ちに関わる仲間として、エールを送りたいと思います。

<<Ms. W>>



1%

次回のぼらんず


7月2日(火)

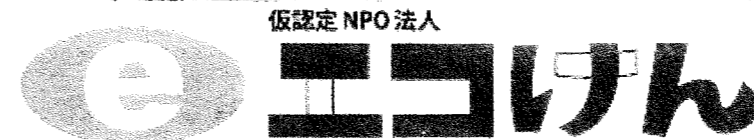
※ぼらんずとは、毎月のボランティア活動です。  
お気軽なご参加をお待ちしています。

15:00~1時間程度

エコロの森周辺

雨天中止





仮認定 NPO 法人

〒811-3114 福岡県古賀市舞の里5-24-13  
 [TEL/FAX] 092-944-6450 [mail] eco\_ecoken@ybb.ne.jp  
 [HP] <http://www.10.ocn.ne.jp/~ecoken>